

建協  
コン  
意交  
見換  
会

# 施策定着へ理解浸透

## 九州皮切りにスタート

建設コンサルタンツ協会（野崎秀則会長）と国土交通省地方整備局などとの202



1年度地方ブロック意見交換会が、2日の九州地区を皮切りにスタートした。写真。第4四半期、とりわけ3月に集中する履行期限の平準化に関して、国、地方自治体とも改善が進んでいることを確認した上で、今後さらなる取り組み強化の必要を受発注者間で共有。技術力による選定や品質の確保・向上を含め、制度や施策に対する理解が現場サイドに実践として定着するため議論を深めた。●関連12面意見交換では、協会側が会

員調査の結果をもとに現状の課題や問題点などの実態を詳細に示した上でその改善に向けた「要望と提案」を説明。特に整備局ごとに先行的に取り組む好事例を積極的に取り入れて水平展開するよう求めた。

野崎会長は実態調査での事例を踏まえながら「仕組みとして合意形成されたものでも実践としてどこまで定着するかがポイントとなる」と指摘し、特に「現場までどう理解浸透させていくかが重要」として受発注者双方の取り組み強化を訴えた。

九州地方整備局の藤巻浩之局長も「納期平準化や技術力の評価、品質確保のいずれもある程度は取り組みの成果が上がってきている半面、踊り場にある」と応じた上で「文書の発出だけでなく、その中身、魂をどう伝えていくか。技術力を持った企業に適正な価格と工期で業務を請けてもらうことが結果的に良い成果品につながることを改めて真剣に考えていく必要がある」との姿勢を示した。